

### 3 キネステティクス体験会

申請者氏名（代表者） 大城 凌子		所属部門	人間健康学部看護学科 基礎看護学領域		
企画名： キネステティクスー持ち上げない体の動かし方を体験しよう！					
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）  キネステティクスとは、行動サイバネティクスの理論に基づく動きの学問とされています。人間の「自然な動き」「動きの感覚」を人と人との関わり（コミュニケーション手段）に応用する概念として、1980年代から、欧州の看護教育に広く取り入れられ、日本では2000年以降に導入された比較的新しい技術です。昨年、キネステティクスの認定プラクティショナーコースを受講し、これからの医療・介護職者だけではなく、「動く」ことの意味を体験的に学ぶことは、介助される側にとっても有益であることを実感しました。今回、キネステティクス創始者であるフランク・ハッチ氏とレニー・マイエッタ氏が日本で唯一公認するケアプロGRESSジャパンの代表中本里美氏をお招きし、キネステティクスを体験的に学ぶ機会を開催することで、地域の医療・看護・介護職のケアの質の向上に貢献できると考えます。					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
大城凌子 伊波弘幸	看護学科 講師 看護学科 助手	基礎看護学 基礎看護学	主催代表 事務局担当		
企画実施報告（参加人数等を明記）					
<p>1) 開催日時：2013年7月27日（土）13:00～16:00</p> <p>2) 場 所：看護学科棟 2階 実習室</p> <p>3) 内 容：講義・及び演習を含む体験講座</p> <p>①キネステティクスの概念を学び、日常生活において動くことの意義や、骨と筋肉を中心に、動きの感覚を体験的に学んだ。</p> <p>②介護・介助の負担を軽くするための体の動き、仕組みを受講生2人1組で体験学習をした</p> <p>③キネステティクスを活用した介護・介助法の普及及びケアの質の向上に向けた継続的学習会企画の趣旨説明と参加へのPRを行った。</p> <p>4) 対 象：看護・介護職・教員（35名）</p> <p>5) 講 師：中本里美（ケアプロGRESS ジャパン代表・キネステティクスアドバンス教師）</p>					

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

・アンケート結果より(回答者 33人 回収率94%)

1) 受講生内訳

20代4人、30代6人、40代12人、50代9人、60代1人、70代1人、無記入2人。

2) 総合評価

①良かった 29人(83%)      ②やや良かった 4人(11%)      ③無記入 2人(6%)

3) ご意見・感想等

①とても勉強になった、次回も第2弾を開催してほしい、今後の参考になったなど

②さらに深く学びたい、沖縄でベーシックコースを開催してほしい等の要望

③「目からうろこ・・・」の体験でした。知らないでケアすることは怖いと思ったなど

※アンケートの結果は概ね良好で、ケアに活かせる技術を体験的に学ぶことは、地域のニーズに応じた企画であると共に、ケアの質の向上に貢献できることが期待される。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

・本体験会は、キネステティクスのベーシックコース(3日間)の内容を、一部抜粋して体験できるように企画した。体験会に参加した受講生からは、もっと深く学びたいという声が多く聞かれた。介護者の身体に負担がかからない介護技術として、キネステティクスを普及させていくためにも、県内で、ベーシックコース(3日間)の研修を開催する意義は大きいと考えている。体験会受講生から早速、県内でのベーシックコース開催を希望する声がある。よって、今後は、大城によるミニ体験会を継続しながら、キネステティクスの技を普及させると同時に、年度内に、ベーシックコース開催に向けた企画を検討していきたいと考えている。

10月24、25、26の日程でベーシックコースを開催した。



写真：キネステティクス体験会の様子